

傍らで 息の長い 伴走型支援



佐々木 真吾

SASAKI Shingo

仙台銀行地元企業応援部
法人推進室 室長代理

被 災地は復興を遂げつつあり、
農業者も次世代へとバトン
が徐々に移っているように感じる。

最近、新規就農者や若い後継
者から、経営計画策定や規模拡大
にかかる借入れについて相談を
受けることが多い。

若く意欲ある農業者からの相談
はアドバイザー冥利に尽きると感
じるし、何とか力になりたいと思う。

ただ、自分の経営を「数字」で明
確に語れる農業者が少ない。

公表されているデータや蓄積情
報を参考に、経営の姿を明確に思
い描いて事業計画を策定してもら
うが、それだけでは「数字を理解で
きた」とはいえない。

どんな業種でも、日々さまざまな
トラブルは起きるし失敗すること
もある。さらに農業は天候不順や

病害の発生もある。

計画を実行に移して、計画値と
実績値のズレを分析、そのズレが
どの程度重要なかを理解すること
こそが、経営を続けていくうえで
最も重要なプロセスであり、アドバ

定ができるようになる。そのステー
ジに農業者がたどり着くまで、根気
強く息の長い伴走型の支援をする
ことが、アドバイザーはもとより金
融機関職員に求められている。

農業者が抱える課題は、労働力



©鎌形 久

イザーが重点的にフォローすべき
部分だ、と実感している。

資 金繰りを含めて、どの数字が
重要なか肌感覚で身に付
けることで、改善方策を検討する
基準が身に付き、対策を考えるこ
とができるようになる。収益向上のた
めには、明確な基準をもとに試算を
繰り返すしかない。

計画は何回つくり直してもよい。
自分が納得する数字を押さえるこ
とができれば、不安は減り、事業を
展開するなかで確度の高い意思決

不足、機械導入コストの高額化、販
路確保など多岐にわたる。加えて、
近年の異常気象の頻発や新型コロナ
ウイルス感染拡大の影響など、
外部環境の変化にも柔軟に対応し、
経営課題の解決をサポートしてい
くことが重要だ。

10年前、私は宮城県石巻市で被
災した。変わり果てた風景は、忘れ
ることができない。自分に何ができ
るのか――。

いま、農業者支援に携わるなか
で、当時の気持ちを忘れずに持ち
続けたい。**F**

ささき しんご

1984年宮城県生まれ。2007年仙台銀行入行。
13年から現部署で農業者支援に携わる。趣味
はマラソン。宮城県農業経営アドバイザー連
絡協議会所属。

■ 農業経営アドバイザー

農業経営者のニーズに対応し、経営への総合的的確なアドバイスを実践する専門家です。
2005年、農業経営の発展に寄与することを目的に日本公庫（当時、農林漁業金融公庫）が資格制
度を創設しました。本コーナーは、上級資格である上級農業経営アドバイザーが執筆します。